

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	<p style="text-align: center;">村越 彩</p> <p style="text-align: center;">【比較社会文化学専攻 平成22年度生】</p>	<p>村越彩氏の研究は中国人日本語学校生がどのように進路選択をしているのか、進路サポート、進路選択自己効力、進路探索行動に着目し実証研究を行い、さらに教育プログラムを用いて進路選択自己効力の効果測定を行い検討したものである。</p> <p>審査は左記の5名の審査委員により6月18日から3回実施された。第1回審査会では、審査員が研究課題に即した明晰かつ総合的な分析がなされており、中国人日本語学校生の進路サポートを心理・社会・教育的側面から検討した独創性の高い論文であると評された。また、方法論的にも質的・量的調査を用いており、研究結果の妥当性が評価された。しかし、詳細な統計的分析の付加、冗長な表現や形式的な面での若干の修正が指摘されたため、これらを踏まえ7月18日に再審査が行われた。その結果、適切に修正がされていたので、2014年7月23日に公開発表会と最終審査が行われた。公開発表会では、まず博士論文に関して30分のプレゼンテーションが実施された。その後、質疑応答が行われたが、明晰かつわかりやすい発表であり、参加者や審査委員の質問に対しては真摯な態度で的確に回答したと評された。</p> <p>その後、行われた最終審査委員会では、審査員一様に中国人日本語学校生の進路選択行動を解明した上で、進路サポート、進路選択自己効力、進路探索行動との関連を分析した独創性の高い論文であると評された。今後の課題としてソーシャルメディアを用いた情報サポートの検討の必要性などが指摘された。最終試験では、論文内容、および周辺領域の基礎知識について口頭で説明を求めたが、適切な回答が得られたため、審査委員会では、最終試験を合格と判定した。また、本研究は異文化間教育および中国人留学生のキャリア教育支援に貢献しうるものとして高く評価され、博士（人文科学：Ph.D. in Intercultural Education）として認定するに十分であると、全員一致で学位授与を決定した。</p>
論文題目	<p style="text-align: center;">中国人日本語学校生の自己効力を活かした進路 選択—日本語教師のサポートに着目して—</p>	
審査委員	(主査) 加賀美常美代 教授	
	内藤俊史 教授	
	佐々木泰子 教授	
	伊藤美重子 教授	
	菅原ますみ 教授	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、 もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	